双葉葉通信【第７７回】“ふくしまの切捨ては許さない”　190601

上　田　　勉

福島第一原発の放射線量 100 ﾏｲｸﾛシーベルト超（基準値 0.23 ﾏｲｸﾛシーベルトの 435 倍）

安倍首相、防護服着ず廃炉視察　福島の復興　見栄優先

「世界最悪レベルの事故を起こした東京電力福島第一原発。4 月 14 日、メルトダウンした 1～3 号機から 100m ほど離れた海抜 35m の高台に、安倍晋三首相は防護服とマスクをつけず、スーツ姿で降り立った。

東電側から廃炉作業の現状について説明を受けた首相は「防護服に身を固めることなく、スーツ姿で見られるようになった。着実に廃炉作業も進んでいる」。視察後の作業員らとの懇談でも「5 年前に視察した時は防護服に身を固めた。今回はスーツ姿で視察ができた」と繰り返した。

5 年半ぶりとなる原発視察。首相周辺は、防護服やマスクをつけない姿をメディアに取り上げることで見栄えを良くし、「復興の進み具合をアピールすること」を狙ったと認める。

だが、1～3 号機周辺の屋外で、防護服を着ないことが許されるのはバスの車内と視察用の高台だけで、高台視察はわずか 6 分ほど。高台の放射線量は毎時 100 ﾏｲｸﾛシーベルト超と高く、長居は許されない。

スーツ姿が可能になったのは、飛び散った放射性物質が舞わないように地面がモルタルなどで覆われたことが主因で、廃炉作業の主眼である燃料デブリは炉心に残ったまま。周辺の線量は極めて高く、取り出し方法すら決まっていない。

首相が 2013 年の東京五輪・パラリンピックの招致演説で「アンダーコントロール（管理下にある）」と安全性を強調した第一原発の汚染水やその処理水は減るどころか、いまなおたまり続けている。

統計から外される避難者

「復興の進み具合を示すデータとして政権が用いる数字に避難者数がある。

昨年 4 月、首相は国会で避難指示の解除が進んだことで、「避難者の数もピーク時の 3 分の 1。復興は着実に前進している」と語った。確かに当初、11 市町村に出ていた避難支持は次々に解除。自主的な避難者を含め、最大で約 16 万人に上った福島県内外の避難者の数について、復興庁は約 4 万人まで減ったとしている。

しかし、避難指示が出た地域の住民登録は約 7 万 1 千人で、実際に住むのは約 1 万 1 千人。約 6 万人が原発事故前の居住地を離れている計算だ。復興庁の数字とは約 2 万人のズレがある。今も避難指示が出ているにもかかわらず、「避難者」として数えられていない人たちがいる。」（「朝日新聞」19 年 5 月 21 日付け）

「（第一原発の汚染水の）状況はコントロールされている。決して東京にダメージを与えることを許さない」（13 年 9 月東京五輪・パラリンピックの招致演説）

（#^ω^）東京さえ良ければ、福島にはダメージを与えたままでもいいのか！

【（スーツ姿で）福島第一原子力発電所を視察する安倍総理（首相官邸 HP4 月 14 日）】

【（防護服を着ないで）福島第一発を視察する安倍総理【日本経済新聞 HP4 月 14 日）】